

第三十六回 ヴィヴァルディのコンチェルトの楽曲構造

ー 第八回企画コンサート・プログラムより

各曲の楽曲分析（アナリーゼ）を通して、ヴィヴァルディのコンチェルトの楽曲構造の特徴を捉える。

- ・ Tutti 部分の調性とリトルネッロを構成する要素に注目
- ・ 「ため息」「ロンバルド・リズム」「逆付点」などの音形に注目

※【別紙資料】「ヴィヴァルディ・コンチェルト楽曲分析」参照

◎ヴァイオリン協奏曲 RV.271 ホ長調 ‘恋人’

第1楽章 Allegro

●リトルネッロ Tutti 部分の調性

第1小節～第12小節：E-Dur 主調

第20小節～：H-Dur 属調

第35小節～：fis-moll 属調の属調の同主調

第44小節～：cis-moll～E-Dur 平行調～主調

第57小節～：E-Dur 主調

●Points：

- ・ 第1小節～第4小節：旋律は分散和音に基づく
- ・ 第1小節～第4小節：ヴィオラとチェロのペダル音（保続音）と和声の関係 →協和
- ・ 第5小節～第7小節：下行音階に基づく旋律とV-Iの繰り返し
- ・ 第8小節～第9小節：低音の下行・順次進行と和声の関係 →不協和
- ・ 第10小節～第11小節：ヴィオラとチェロのペダル音（保続音）＝ドミナント（属音）ペダルと和声進行
- ・ 第12小節：終止形（カデンツ）

第2楽章 Cantabile

●調性：e-moll～a-moll～e-moll

●Points

- ・ アウフタクトから始まる10小節から成る短い楽章
- ・ 同主調のe-mollで書かれ、前半e-mollからh-moll後半a-moll、G-Durを経てe-mollで終止する
- ・ ソロの下行する歌謡旋律は時折大きく跳躍する。
- ・ ソロの「逆付点音形」と「ため息音形」
- ・ 第1・第2ヴァイオリン、ヴィオラによる8分音符と4分音符から成る伴奏音形が静かにソロに寄り添う
- ・ 第5小節、第10小節の終止形（カデンツ）と旋律
- ・ 第6小節：a-mollの $\text{V}_{\text{q}}\text{-I}$ 、第7小節のG-Durの $\text{V}_{\text{q}}\text{-I}$ の和声

第3楽章 (Allegro)

●リトルネッロ Tutti 部分の調性

第1小節～：E-Dur 主調

第 48 小節～：H-Dur 属調

第 79 小節～：cis-moll 平行調

第 103 小節～：fis-moll 平行調の下属調

第 149 小節～：E-Dur 主調

●Points

- ・第 1 小節～第 8 小節：第 1 ヴァイオリンと第 2 ヴァイオリンの旋律の交替
- ・第 1 小節～第 8 小節：I-Vの和声
- ・第 9 小節～第 10 小節：ヴァイオリンの D 音=エオリアの 7 度 E-Dur : I_7^{\sharp} (A-Dur : V_7) の第 7 音
- ・第 9 小節～第 20 小節：転調を伴う V-I の和声進行
- ・第 16 小節～第 20 小節：ヴィオラとチェロのペダル音 (保続音) =ドミナント (属音) ペダルと和声進行
- ・第 17 小節～第 20 小節：ヴィオラの As 音=H-Dur の導音 V-I の和声進行
- ・第 21 小節～第 25 小節 1 拍目：第 5 小節～第 8 小節の繰り返しの後、終止形 (カデンツ)

◎ヴァイオリン、2 台のチェロ、弦楽合奏、通奏低音の為の協奏曲 ハ長調 RV.561

第 1 楽章 Allegro ※スコアに基づき、アウフタクトの小節を 1 小節目とする

●Tutti 部分の調性

第 1 小節～第 14 小節：C-Dur 主調

第 32 小節～：G-Dur 属調

第 52 小節～：e-moll 属調の平行調

第 72 小節～：a-moll 平行調

第 90 小節～：C-Dur 主調

●Points

- ・第 1 小節～第 14 小節 1 拍目：シンコペーションを含む音形を繰り返す特徴的な旋律
- ・第 1 小節～第 3 小節：ヴィオラによるトニック (主音) ペダル、第 4 小節で終止形 (カデンツ)
- ・第 5 小節～第 6 小節 2 拍目：ヴィオラとチェロ・バスによるドミナント (属音) ペダル
- ・第 6 小節 3 拍目～第 8 小節：バスのよる主音の繰り返し (トニックペダル)、その上のチェロによる主音の音形
- ・第 7 小節、第 8 小節：ヴァイオリンの H 音はIIIの構成音 (第 5 音)
- ・第 9 小節～第 14 小節 1 拍目：ヴィオラによるトニック (主音) ペダルと終止形 (カデンツ) の交替

第 2 楽章 Largo

●調性：C-Dur~G-Dur~C-Dur

第 3 楽章 Allegro (molto)

●Tutti 部分の調性

第 1 小節～第 13 小節：C-Dur 主調

第 36 小節～：G-Dur 属調

第 68 小節～：e-moll 属調の平行調

第 98 小節～：C-Dur 主調

●Points

- ・第 1 小節～第 3 小節、第 5 小節～第 7 小節：シンコペーションの音形を三回繰り返す
→ヴィヴァルディ特有の形

- ・第1小節～第8小節2拍目：ヴィオラとチェロ・バスによる8分音符
- ・第5小節～第7小節：チェロと通奏低音のV・Iの5度進行のゼクエンツ
→ 第5小節：F---H、第6小節：E---A、第7小節：D---G
- ・第8小節～第13小節1拍目：減七の和音、ナポリの6度を含む二重カデンツ
- ・第12小節～第13小節1拍目：Tuttiのユニゾンによる終止

◎二台のチェロの為の協奏曲 ト短調 RV. 531

第1楽章 Allegro

●リトルネッロ Tutti 部分の調性

第10小節～：g-moll 主調

第39小節～：B-Dur 平行調

第61小節～：c-moll 下屬調

第76小節～：Es-Dur 下屬調の平行調

第93小節～：g-moll 主調

●Points

- ・第1小節～：二つの独奏チェロが1小節遅れの模倣で入る→3度音程
- ・第10小節3拍目～第17小節2拍目、第39小節3拍目～第43小節、第61小節3拍目～第64小節：和声
- ・第19小節3拍目～第23小節2拍目、第65小節～第68小節、第75小節3拍目～第79小節：Tuttiの音形

「フンケン」

第2楽章

●Points

- ・ソロの「ため息音形」

第3楽章

●リトルネッロ Tutti 部分の調性

第1小節～：g-moll～B-Dur～D-moll(～g-moll ソロ) 主調

第40小節～：d-moll～F-Dur～a-moll 属調

第73小節～：B-Dur～F-Dur～c-moll 平行調

第122小節～：g-moll～F-Dur～a-moll 主調

●Points

- ・第1小節～：ヴァイオリンによるシンコペーションの力強い音形、ヴィオラとチェロによる8分音符の下行音階の音形と転調
- ・第87小節～：ソロとTuttiの16分音符の音形とその交替

◎ファゴット協奏曲 ホ短調 RV.484

第1楽章 Allegro poco

●リトルネッロ Tutti 部分の調性

第1小節～：e-moll～h-moll～a-moll～e-moll 主調

第26小節～：h-moll 属調

第39小節～：a-moll～e-moll～h-moll～e-moll 下屬調

第 65 小節～：e-moll 主調

●Points

- ・「ロンバルド・リズム」
- ・ヴァイオリンによる 32 分音のアルペッジョ

第 2 楽章 Andante

●調性：h-moll~ fis-moll~ h-moll

●Points

- ・Tutti による四分音符の跳躍音形と「ロンバルド・リズム」の旋律

第 3 楽章 Allegro

●リトルネッロ Tutti 部分の調性

第 1 小節～：e-moll 主調

第 50 小節～：a-moll 属調

第 91 小節～：C-Dur~ a-moll~ e-moll 属調の平行調

第 133 小節～：e-moll 主調

●Points

- ・Tutti による 16 分休符を含む音形と下行音階による旋律

ヴィヴァルディの「フルート協奏曲」について

- ・作品 10 の一連のフルート協奏曲は、ヴィヴァルディによる音楽史上初のフルート協奏曲集？
- ・RV.440 は作品 10 より後、1728 年より後、いつ頃作曲された？
- ・フルートソロは 16 分音符の 3 連符が少なく 16 分音符×4 が多い？
- ・フルートソロは a・moll は吹きにくい？
- ・スラーが多く、穏やかな転調、または転調が少ない？→ギャラント様式

◎フルート協奏曲イ短調 RV.440

第 1 楽章 Allegro non molto

●リトルネッロ Tutti 部分の調性

第 1 小節～第 16 小節：a・moll～d・moll～C・Dur～c・moll～F・Dur～G・Dur～C・Dur～a・moll 主調～・・・

第 31 小節～：e・moll 属調

第 51 小節～：G・Dur～D・Dur～E・Dur～a・moll 平行調

第 68 小節～：a・moll 平行調

●Points

- ・第 1 小節～第 3 小節：ヴァイオリンによる 16 分音符を含む輪郭のはっきりしたリズム音形による主題旋律
- ・第 1 小節 3・4 拍目、第 2 小節 3・4 拍目：ヴァイオリンと対照を成すチェロ・バスの下行音形
- ・第 1 小節～第 2 小節：チェロの V・I の和声進行
- ・第 4 小節～第 6 小節：チェロによる主題旋律のリズム音形の模倣
- ・第 4 小節：d・moll の $\check{V}-V$ 、第 5 小節：C・Dur の $\check{V}-V$ の和声
- ・第 7 小節～第 8 小節：ヴァイオリンによる 16 分音符の下行音形のゼクエンツ
- ・第 9 小節～第 12 小節：チェロによる 16 分音符の下行音形のゼクエンツの模倣
- ・第 9 小節、第 10 小節、第 11 小節：F・Dur、G・Dur、C・Dur の $V V V_7-I$ の和声
- ・第 12 小節～第 13 小節：ヴァイオリンによる主題旋律
→第 14 小節～第 16 小節 1 拍目：ヴァイオリンのユニゾンによる下行音階の繰り返しと二重終止（カデンツ）

第 2 楽章 Larghetto

●調性：a・moll～e・moll～a・moll

●Points

- ・第 1 小節～第 4 小節 2 拍目：チェロの下行（順次進行）と和声
 $A-G-F-E \quad I-V_7^h-IV-V$
- ・第 1 小節、第 4 小節：第 1 ヴァイオリンとチェロの G 音＝エオリアの 7 度
a・moll： I_7^h (D・Dur：V) の第 7 音
- ・第 4 小節～第 5 小節：ヴィオラとチェロによる転調を含む V・I の和声進行
- ・第 6 小節～第 7 小節：二重終止（カデンツ）

第 3 楽章 Allegro

●リトルネッロ Tutti 部分の調性

第 1 小節～第 21 小節：a・moll～d・moll～C・Dur～a・moll 主調～・・・

第 43 小節～：C・Dur 平行調

第 68 小節～：d・moll～F・Dur～a・moll 下屬調～下屬調の平行調～主調

第 101 小節～：d・moll～C・Dur～a・moll 下屬調～平行調～主調

●Points

- ・第 1 小節～第 21 小節：
冒頭のリトルネッロ Tutti 部分は長く、転調を含む
- ・第 1 小節～第 6 小節：
ヴァイオリンの上行音形とチェロ・バスの下行音形 →対照
- ・第 2 小節、第 4 小節：
チェロによる 8 分音符での目まぐるしい V・I の和声進行
- ・第 7 小節、第 19・第 21 小節：
ヴァイオリンによる「ロンバルド・リズム」→倚音（アポジヤトゥーラ）
※第 19・第 21 小節の「ロンバルド・リズム」の繰り返しの後、終止
- ・第 8・第 9 小節、第 11・第 12 小節、第 14・第 15 小節：
ヴァイオリンのスラーの付いた 8 分音符 →ギャラント様式